

## やる気を引き出す・やる気を育てるには

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 今朝の「開倫塾の時間」では、非常に難しい問題の1つである「やる気を引き出すにはどうしたらよいか・やる気を育てるにはどうしたらよいか」についてお話をさせていただきます。具体的には、とても著名な教育者である梶田叡一先生が書かれた「<やる気>を引き出す・<やる気>を育てる」という著書を参考にしながら、どのようにしたら子どもたちのやる気を引き出すことができるのか・やる気を育てることができるのかを皆さんといっしょに考えていきたいと思えます。この内容は子どもたちはもちろん、大人にもあてはまりますので、ぜひお聴きください。
3. 現実的なところから考えていくと、やる気が起こるのは、おもしろいから・やりがいがあるから・大事だから・やるべきだからという4つの気持ちのときと言われています。これらは非常に大切なことですので、1つ1つ検討していきたいと思えます。

例えば、1番目の「おもしろいからやってみよう」というやる気は、人との出会い・いろいろな物との出会いから生じるものです。ですから、出会いの対象となるものは一人ひとりの興味・関心を引き付けて止まないものでなければなりません。それに一番よいのは、素晴らしい人物と引き合わせる事・テレビやラジオの素晴らしい番組を見たり聞いたりさせることだと思えます。素晴らしい映画を観させる・素晴らしい本を読ませることも同様です。つまり、おもしろいからやってみようという気持ちにさせるには、出会う対象となるものをよく選んであげることが大事です。そうすると、好奇心が育ち、やる気が出ます。
4. 2番目の「やりがいがあるからやってみよう」というやる気を起こさせるには、ものごとに積極的・意欲的に取り組んでいく場や状況を準備することが大事であると思えます。例えば、易しすぎる問題では物足りなく、難しすぎる問題は持て余してしまいますので、今の能力をもってがんばりさえすればやり遂げられる問題を、学校の先生方は生徒の皆さんに出すのがよいのです。つまり、易しすぎても難しすぎてもよくないので、今の能力をもってがんばりさえすればやれるんだというものを生徒たちの前に出すことが大事です。

また、課題に取り組んでいる途中で自分なりに「やった」「できた」ということが感じられるように、課題そのものをよく考えることも大事だと思えます。適切妥当な問題を出し、うまくいったときには認めてあげたり褒めてあげたりすることが大事です。うまくいったときに認められること

・褒められることは、やりがいの大切な中身になってくると思います。ですから、先生は常に生徒一人ひとりに目を配り、適当な時期に適切な言葉を掛けて承認したり称賛したりすることが大事であると思います。

これは大人の場合も同様です。皆さんの周りには、部下やビジネスパートナー、ご家族など、いろいろな方々がいらっしゃると思います。その方々に適当な時期に、適切な課題を「これやっぺららん」という形で出し、それがうまくいったら、きちんと認めてあげたり褒めてあげたりすることが大事ではないかと思ひます。

5. 3番目の「大事だからやってみよう」という気持ちを起こさせることも大事です。それには、この勉強はなぜ必要なのかという学習そのものの意義を説き、自分自身を励まして勉強する克己勉励(こっきべんれい)の大事さを説明することが必要だと思ひます。そして、先生や親からそれを聞いた生徒や子どもは真剣・真摯に受け止めて反芻し、「果たしてそうなのか」と自分の中で対話につなげることが望まれます。

「好きなときに好きなようにやればよい、好きなことをやればよい」と言うのは、あまりにも優しすぎます。ゆとり教育の弊害かもしれませんね。先生方や親御さんは、「好きなことだけやればよい、好きなときにやればよい、好きなようにやればよい」ということはあまり口にしない方がよいかもしれません。時々はよいと思ひますが…。逆に、こんな事が大切だよということをきっぱりと言ってあげることが大事だと思ひます。

6. 4番目の「やるべきことだからやろう」という気持ちも大事です。やるべきことは必ずやらなければなりませんから、自分の中に潜む弱さを押さえて、自分を叱咤激励して、自分を鞭打って努力することが大事だと思ひます。そのような姿勢を堅く持った人はどのような道であっても成功する場面が多いですから、道元さんという禅の先生が強調した「ただひたすらに」の精神も大事です。

7. 最後に、どのようにしたらやる気を持続させることができるかについてお話しします。体力が気力を生みますので、早寝早起きをするこゝとよく歩くことが大事です。気力が決心を育てますので、黙思・黙想といって無言でものごとをじっくりと考えるこゝと我慢をすることも大事です。対処する力が積極性を生みますので、嫌なこゝとに進んで臨むこゝと・やりかけたこゝとは最後までやり抜くこゝとも大事です。

最終的には、積極的な人生観が道を切り開きますので、皆の先頭に立ってものごとくにチャレンジする勇氣を持つこゝとも大事です。自分が燃えて周りを照らしてあげることが大事です。

8. 今日、梶田叡一先生がお書きになった「<やる気>を引き出す・<やる気>を育てる」という本をもとに勉強させていただきました。放送をお聴きの皆さんも、どのようにしたらやる気を引き出すことができるのか、育てることができるのかをお考えいただければと思ひます。